

# 2022 年度 個人研究実績・成果報告書

2023 年 2 月 12 日

所属	商経学部	職名	教授	氏名	相良 陽一郎
研究課題	教育実習に関する効果的な事前・事後教育の研究				
研究キーワード	教育実習・事前／事後教育・教職課程・教育相談	当年度計画に対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた		
関連するSDGs項目	4. 質の高い教育をみんなに	16. 平和と公正をすべての人に	該当なし	該当なし	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>東京家政大学との共同研究として、教育実習の成否に関わる実習生の道徳的態度の重要性について検討を行った。研究成果は以下の論文 1) として発表した。</p> <p>また、上記の研究課題とは別に、同朋大学との共同研究として、ためこみを呈する住人への介入方法と課題に関する検討を行った。研究成果は以下の論文 2) として発表した。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>【著書・論文（査読なし）】</p> <p>1) 【論文】相良麻里・相良陽一郎 2023 教育実習に関する効果的な事前・事後教育の検討：実習中に求められる「道徳的態度」について (2). 千葉商大紀要, 60 (3). (印刷中) [査読なし]</p> <p>2) 【論文】川乗賀也・相良陽一郎 2022 ためこみを呈する住人への介入方法と課題の検討：いわゆるごみ屋敷に住む住民への支援者による介入事例から. 千葉商大紀要, 60 (2), 161-167. [査読なし]</p> <p>3. 主な経費</p> <p>データ分析用のコンピュータ・ソフトウェア・記録媒体を購入し、それらを使用して、研究を進める上で必要な分析を行った。</p> <p>また、関連文献の購入・学会への参加・研究会の主催などについても予定通り行い、そのための経費を計上した。ただしリモートへの対応のため、必要に応じて Zoom 等の Web 会議システムにより実施した場合もあった。</p> <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）</p> <p>特になし。</p> <p style="text-align: right; font-size: small;">(本文は2ページ以内にまとめること)</p>					